

第23回

中学生訪中親善使節団報告書

平成28年7月26日(火)～7月31日(日) 6日間

上海・南昌



公益
法人

Takamatsu International Association

高松市国際交流協会

第23回 中学生訪中親善使節団





目 次

1 団 員 名 簿	1
2 日 程	2
3 使節団の活動状況	3
4 感 想 文	11

第23回 中学生訪中親善使節団 団員名簿

団 長	久 保 朗	高松市教育委員会 学校教育課長	
同行職員	何 燕 萍	(公財) 高松市国際交流協会職員	
団 員	松 本 叶	高松市立桜町中学校	1年
”	旭 竜之介	高松市立桜町中学校	1年
”	真 部 いさな	香川大学教育学部附属高松中学校	2年
”	吉 田 千 桜	香川県大手前高松中学校	2年

第23回 中学生訪中親善使節団 日程

月 日 (曜日)		主 な 行 事		宿 泊
1	7月26日 (火曜日)	10:30 13:00 14:10	高松空港集合 (出発式) 春秋航空9C8890便にて上海へ 上海浦東国際空港着 魯迅記念館見学・外灘散策	上 海 泊 上海賓館
2	7月27日 (水曜日)	8:00 13:17 16:47 18:00	ホテル出発上海動物園見学へ 高铁G1389にて南昌へ 南昌駅着 南昌外事弁公室出迎え ホストファミリー対面式	南 昌 泊 生徒：ホームステイ 引率：南昌凱萊大飯店
3	7月28日 (木曜日)	午前 12:00 午後	南昌市第28中学校見学・生徒と交流 第28中学校歓迎昼食会 南昌陶磁芸術博物館・滕王閣見学 ホストファミリー出迎え	南 昌 泊 生徒：ホームステイ 引率：南昌凱萊大飯店
4	7月29日 (金曜日)	9:30 12:00 14:00 17:30 18:00 20:00 20:30	八大山人記念館見学へ 南昌市外事弁公室主催歓迎昼食会 万達茂文化旅遊城見学 南昌市人民政府表敬訪問 南昌市人民政府主催歓迎会 ホストファミリー出迎え ホームステイ先訪問 (団長、引率)	南 昌 泊 生徒：ホームステイ 引率：南昌凱萊大飯店
5	7月30日 (土曜日)	8:30 9:00 10:15 14:00 18:30	ホテル集合 南昌昌北空港へ出発上海へ移動 FM9246便にて上海へ 昼食上海市内見学 上海市内見学(環球金融センター・豫園) ホテル着	上 海 泊 上海空港ホテル
6	7月31日 (日曜日)	6:30 9:00 12:00	ホテルから出発ロビーへ移動 春秋航空9C8889便にて高松へ 高松空港着 (解散式)	

使節団の活動状況

7月26日（火曜日） 使節団1日目

●高松～上海

団員4名それぞれが親善使節団員としての決意と少しの不安を持って高松空港に集合し、出発式を行った。出発式には4人の団員の家族の皆さん、高松市国際交流協会の馬場常務理事、高松市都市交流室の里石室長にも参加いただき、団員それぞれの親善使節団と使節団としての意識も高まった。



高松空港での出発式

春秋航空の上海からの便が30分遅れということで、高松発も遅れるかと心配したが、荷物検査、出国手続きも無事終了し、定刻の13時よりは少し過ぎになったが、我々を乗せた春秋航空9C8890便は上海に向けて離陸した。座席は6人が近くには指定されず、少し離れ離れになったが、到着後、機内から出るのを急がずに6人は最後の方にまとまって出ることとした。天候も良く、飛行中に揺れることもなく、快適な空の旅であった。



上海浦東国際空港到着

上海はとにかく暑かった。38℃というアナウンスではあったが、実際は40℃ということもよくあるとガイドさんの言葉に納得した。暑い中、まず向かったのは「魯迅記念公園」であった。広い公園内をぐるぐると歩いて見学をした。あまりに暑く、

上海の浦東国際空港到着後、入国審査を受けた。唯一中国語が話せる国際交流協会事務局員の何さんが中国籍であり、残りの5人（団長+団員）は不安の中、外国人の列に並んだ。係員にパスポートを出すと、カメラを見るようにという指示らしきものを感じ、カメラの方に向きを変え、無事入国を許可される。預けた荷物を受け取り中国に入国し、ガイドさんの尹さんと合流し車に乗り込んだ。



魯迅記念公園

公園内の売店で飲み物を買ったが、飲み物は日本の感覚で言うとぬるかった。しかし、のどが渇いており、とにかく水分補給を行った。そんなことで時間を取ったせいも、魯迅記念館に着いた時には、残念なことに閉館時間が過ぎており、入館することができなかった。仕方なく公園を見学して車に戻った。

続いて向かったのは、外灘（バンド）という黄浦江沿いの外灘遊歩道であった。川を挟んで新しい中国と、古い中国が一度に見られるとても素敵な場所だった。植民地時代の名残がある歴史的建造物と、超高層の近代ビルが立ち並んでいた。ライトアップされる夜の景色がさらに美しいということだったが、今回は残念ながら見る予定にはなっていなかったが、オールド上海の美しさを堪能した。



上海外灘遊歩道

見学を終え、夕食の場所へ移動した。食事には熱いお茶しか付いていないということで、近くの店でミネラルウォーターやジュースを買ってから食堂に入った。中国での最初の食事は、もちろん中華料理であった。丸いテーブルの上に運ばれてくる料理をクルクルと回して食べた。

食事後、宿泊するホテルの上海賓館へ行きチェックインした。部屋には無料のミネラルウォーターが1本あるとのことだったが、ガイドさんの案内でホテル近くのコンビニに買い物に行った。コンビニは日本にもあるファミリーマート（中国では全家）だった。



宿泊ホテル「上海賓館」

7月27日（水曜日） 使節団2日目

●上海～南昌

モーニングコールで起床した後、ホテルで朝食をとり、上海動物園に向かった。入口の前に孫悟空と猪八戒のコスプレをした2人と一緒に写真を撮ると、料金を請求されたが、ガイドさんが支払ってくれた。まさか有料だとは思わず、気軽に写真を撮った。広大な動物園で、歩いて回ったが暑さに負けそうだった。色々な動物を見学しながら奥にあるパン



上海動物園

ダ館を目指した。パンダはガラスの向こうで引っくり返って寝ていたが、羽を広げた孔雀や、ゴリラ、ホワイトタイガーなど多くの動物を見学できた。しかし、歩いての見学は暑くてたまらず、売店で飲み物やアイスクリームを買って食べた。動物園を出たが、移動の車が到着しておらず、暑さをしのぐため地下鉄の駅にエスカレーターで降りた。地下に降りるとエアコンが効いていて涼しかった。

レストランで昼食をとり、上海虹橋駅へ車で移動した。駅はとても大きく、列車を待つ人も大勢いた。ほぼ時間通りの13時11分発の新幹線で南昌に向かった。



新幹線で南昌へ

座席は1等席で、席は通路を挟んで2席ずつ、でゆったりと座れた。最高時速は300kmである、が約3時間半かかった。

1等席だからか乗車券の確認の時に菓子の詰め合わせが配られた。車窓からの風景は街並みからやがて農村の風景へと変わり、それが2時間以上続いた。農村に入ると人々の住まいがマンションから一軒家になった。農家の方は金持ちが多いらしく、一軒家は大きな建物であった。地域によって建物の屋根の形や色が変化した。

南昌駅に到着。改札を出ると、南昌外事僑務弁公室の顔さんと王さんのお迎えがあった。第23回使節団を歓迎する横断幕がうれしかった。予定が変更になり、友好会館ではなく、引率が宿泊するホテル南昌凱萊大飯店の上階にある展望所のようなコーナーでホストファミリーとの対面式を行った。受け入れてくれる4家族が迎えてくれた。



ホストファミリーとの対面式

どの家族も歓迎してくれ、4人の団員はほっとしたようだった。最初は恥ずかしがっていたが、ホストファミリーの優しさがすぐに伝わり、打ち解けていった。全体・個々での記念撮影をし、団員はそれぞれのホストファミリー宅へ移動した。

7月28日(木曜日) 使節団3日目

●南昌

朝ホテルのロビーに団員たちは、各ホストファミリー宅での朝食を済ませ集合した。全員そろって外事弁の車で南昌第28中学校へ向かった。きれいで大きな学校だった。到着

すると書記、校長、関係教職員さんの出迎えがあった。校長より校舎内の簡単な案内を受けた。教室は木があまり使われてなく、石造りの教室であり、日本の教室とは違った感じがした。運動場がとてもきれいだった。

交流会場である会議室へ案内され、南昌の子どもたちとの交流会を行った。南昌側からは、二胡や琴と笛の演奏、小中学生による舞踊、ダンス、ミュージカル等とても練習されていて素晴らしかった。進行役の女子中学生も堂々としていた。我々も準備していた出し物の詩吟、ピアノ演奏、暗算、高松を知ってもらうクイズ、高松祭りの舞踊を披露し、お



交流会で踊りを披露

互いに和やかなムードで交流会は終了した。子どもたちはすぐに打ち解け、記念写真を撮ったり、一生懸命にコミュニケーションをとったりして別れづらい様子であった。

交流後は、中学校側の主催で昼食会に参加した。由緒あるホテルでの昼食会であった。バイキング方式で、子どもたちにはアイスクリームが好評であった。連日猛暑が続く中、涼を感じるひと時であった。

午後からは南昌の見学を行った。まずは南昌陶磁芸術博物館の見学を行った。大小様々な大きさの陶磁に肖像画、風景画等が細かな筆遣いで描かれていた。博物館の隣の建物ではアトリエがあり、実際に作成している様子を見学することができた。

次に見学をしたのは有名な滕王閣だった。唐代創建の名楼で、当時の王や身分の高い人々の生活を垣間見ることができた。戦火や災害により何度も倒壊したが、その都度再建され現在に至っているそうだ。中心の建物の周りに新しく建設された楼閣が並び、川に沿った一帯が歴史的建物群になっていた。



滕王閣にて

見学終了後、ホテルに戻り子どもたちはホストファミリーの迎えにより、それぞれのホストファミリー宅へ移動した。

7月29日（金曜日） 使節団4日目 ●南昌

前日と同様、朝ホテルのロビーに団員たちは、各ホストファミリー宅での朝食を済ませ集合した。南昌市人民政府への表敬訪問の予定が変更になり、遅めの集合になった。子どもたちはそれぞれのホストファミリー宅での生活を楽しんでいるようであった。



八大山人記念館

時間を遅らせて八大山人記念館を見学した。趣のある建物と現代建築の両方に素晴らしい書と絵が展示されていた。この施設でもそうだったが、南昌市外事僑務弁公室の計らいで、ガイドさんを付けてもらい、詳しい説明を受けた。ただ中国語が分からないので、その都度、外事弁の顔さんに通訳してもらった。記念館はどこも広い敷地であ

り、建物の周りには広くきれいな庭が整備されていた。

昼は、南昌でずっとお世話になっている南昌市外事僑務弁公室主催の昼食会に参加した。梅主任さんが新しく主任として異動してきた忙しい時期と重なったが、丁寧にもてなしてくれた。食事の際にあった椰子の実のジュースが日本ではあまり無い物であり、新鮮な味であった。

昼食後は新しく建設された万達茂商場へ行った。広大な土地に、陶器を思わせる外観のとてつもなく大きなショッピングモールであった。夏休みでもあり、家族連れが多く来ていた。そのショッピングモールの中に水族館があり、その見学を行った。イルカショーの見学では、優先的に入場して予約席に着くことがで



万達茂商場の水族館

き、特等席での観覧ができた。南昌市外事弁の格別な配慮を感じた。イルカショーの後もガイドさんが付き、水族館内を快適に観覧した。時間の都合でショッピングはできなかった。



南昌市人民政府への表敬

夕方、予定が変更になった南昌市人民政府への表敬を行った。豪華なホテルの一室が表敬会場であった。立派な部屋に立派な椅子がセットされており、会が始まる前から緊張していた。南昌市人民代表大会常務委員会の魏国華副主任さんを始め、南昌市の要職の方々

との会談を行った。進行役がないこともあり、会談は何となく始まりそして終わった。

その後、部屋を移動して歓迎会となった。要職にある方々との会食であり、ここでも緊張気味であった。食事が一段落したところで、松本さんが詩吟を披露した。

会食後、ホテルへ戻り、子どもたちはホストファミリーと合流してそれぞれのホームステイ先へ帰っていった。ホームステイの最終日ということで、旭さんを迎えてくれている刘さん宅を訪問した。家の一番いい部屋がホームステイ部屋として提供されていた。おじいちゃんも歓迎してくれており、家族にとっても温かく迎えられていることが分かった。中国の家庭の様子を少しだが垣間見られたことは新鮮だった。



ホームステイ先を訪問

7月30日（土曜日） 使節団5日目 ●南昌～上海

団員は、各ホストファミリー宅で最後の夜を過ごし、ホテルに集合した。ホストファミリーとのお別れは名残惜しそうだった。もっともっと交流したかったという思いが溢れ出ていた。写真を撮り、握手をし、最後のお別れをし、車で南昌空港へ向かった。

空港では大変お世話になった南昌市外事僑務弁公室の顔さん、王さんとお別れをし、中国東方航空・上海行きのFM9246便に搭乗した。機内食もあり、1時間半のフライトは快適であった。上海は高松からの便が到着した浦東空港とは違い、上海の街に近い虹橋空港への到着であった。

空港ではガイドの尹さんと再会し、車で昼食会場へ移動した。機内食を食べていたこともあり、皆あまり箸が進まない状況であった。初日には川の対岸から見ただけであった上海の高層ビル群の中の上海環球金融センターの展望台へ高速エレベーターで登った。天気も良く見晴らしは素晴らしかった。上海の近代化、繁栄ぶりを感じさせられた。日本でも流行した「こびとづかん」の展示会が開催されており、子どもたちには人気であった。



上海環球金融センター展望台より

最後は上海を代表する観光地の一つである豫園を見学した。豫園とは楽しい園という意味で、明代の庭園ということであった。歴史を感じさせるものであった。園内に龍の彫り

物がある壁があったが、龍は皇帝以外使ってはいけないとされる生き物であり、皇帝が使用する龍は5本指に対し、龍壁の龍の指は3本指であり格下の龍とされる、という説明があった。周りには多くの土産物店や飲食店が集まっていた。ガイドさんの案内で土産店を回って買い物をした。交渉で値段が安くなる物もあった。夕食も近くで取り、上海浦東空港ビル内にある上海大衆空港賓館へ移動した。



豫園



最後の夕食

チェックインした後、皆で空港ビル内の店で、残っていた元を使って最後の買い物をした。それでも残った元は、手数料はかかったが、両替所で日本円に交換した。買い物後、明日の帰国に備えてそれぞれの部屋で就寝した。

7月31日(日曜日) 使節団6日目 ●上海～高松

朝の6時ロビー集合であったが、二度寝をした団員があり少し遅れてホテルで朝食をとった。せわしなく朝食を済ませ、そのまま出国手続きに向かった。朝の早い時間ではあったが、出発便も多いせい、大勢の人がすでに並んでいた。一般手続きには長蛇の列があったので、団体受付で早く手続きを済まそうとして、何さんが職員に交渉したが、ガイドがいないとダメとのことで長い列に並んだ。中国語が分かる何さんに全てを託して無事荷物を預け、航空券を手に入れることができた。次に出国手続きに向かったが、同じく長蛇の列だった。何さんが機転を利かし、団体受付に6人で並び、スムーズに手続きは終了した。時間が迫って心配していただけに出国手続きが終わったときはほっとした。

案内に従い空港内バスで移動し、春秋航空9C8889便にて高松に向けて帰国の途についた。定刻の8時45分発を少し遅れ離陸したが、天候も良く、飛行機は殆んど揺れることもなく、快適な空の旅であった。12時少し過ぎ無事高松空港に到着。荷物を受け取り、入国手続きをした。一週間ぶりの高松空港で最後の解散式を行った。



春秋航空9C8889便にて高松へ

6日間の多くの思い出を胸に、松本さんが代表で感想を述べた。解散式の後、団員は迎
えの家族とともに自宅へと向かった。

全員怪我もなく病気もせず全日程を終了できたことを、今回の使節団でお世話になった
多くの人に感謝をこめて報告したい。

交流会の様子



感 想 文



継 続 は 力 な り

第23回中学生訪中親善使節団団長 高松市教育委員会学校教育課

課長 久保 朗

高松市内の中学生4名と高松市国際交流協会職員何燕萍さんとの「第23回中学生訪中使節団」の6日間は、参加した生徒にとっても、私にとっても非常に内容の濃い活動ができた有意義な日々であり、生涯の思い出となるものでした。

今回の訪中は上海と南昌を訪ねるコースで、中国の歴史・文化・生活を知り、中国への理解を深めるとともに、訪問した中学生、ホームステイした中学生との友好を深めることができました。訪中期間は全日とも天候に恵まれ、予定していた行事を無事終えることができました。暑い所だとは聞かされて覚悟はしていたのですが、外温40度という表示や、むっとする暑さは想定外であり、さすがに参りました。また、冷たい飲み物を求めるのですが、ミネラルウォーターは常温の販売が多く、冷蔵庫に入っている飲み物の販売所を求め苦勞しました。後で中国には「冷たい水」を飲む習慣があまりないことを知り納得しました。

生徒たちは、南昌第28中学校の生徒との交流会、ホームステイを通して視野が広がったことと思います。私自身も教育に携わる者として、常々諸外国の小・中学生の実情（学校での授業、家庭での様子）には関心を持っていたので、中国の中学生の実情を実際に見ることができ、大変参考になり視野が広がりました。何と云っても中国の中学生のパワーには大変驚かされました。自分の考えや気持ちをしっかりと表現し、相手に伝え、分かってもらおうとする姿は物おじせず迫力があり、圧倒されるものでした。疑問に思っていることは素直に聞き、解決しようとするコミュニケーション力もすごいものでした。日本の生徒にフレンドリーに接する姿勢、積極的に接する姿勢はとても好感が持て、我々も学ぶものが多くありました。



高松の4名の生徒たちも、第28中学校との交流会では、詩吟、ピアノ、暗算、クイズ等により、高松の文化や自然を紹介し、交流を深めるとともに友好関係を築きました。4名は、出発前の研修会で踊りの練習をしたり、クイズの内容を考えたり、進行案を考えたりしました。その練習した成果を訪問先で発揮し、堂々と発表することができたと思います。人数は少なかったものの、心に残るものになったと思います。

今回が23回というこの訪中親善使節団、今まで積み重ねてきた親善の歴史は大変貴重なものです。参加する生徒の人数が減ってきているのが気がりではありますが、中断させることなく継続することが大きな意味を持つと思います。使節団に参加した生徒は視野が広がります。大袈裟にいうと人生観が変わります。そんな体験ができるのです。南昌市内の中学生の親善交流がずっと続くことを願っています。



絢爛たる春を迎えるために

公益財団法人高松市国際交流協会

何 燕萍

高松市の友好都市である南昌市は、中国の4大ストーブの一つ。今年はそのストーブがもっとも燃えている時に、久保団長と4名の訪中使節団員に同行して訪問してきた。連日40℃を超える南昌は然り、経由地である上海も40℃を超え、皆さんが熱中症で体調が崩れたらと心配する毎日であったが、若い団員のパワーのせい、とにかく全員元気、無事に帰国することができた。

今回訪問した南昌第28中学校は8年前に第16回中学生訪中親善使節団16名が訪問し交流した学校である。学校責任者の案内でキャンパスを見学した後、交流会の舞台となる会議室へ。そこに夏休中にも関わらず、生徒や保護者や教職員達が100人以上集り、大きな歓声と拍手で私達一行を迎えた。熱気にあふれる会場でさすがエアコンも参ってしまうようである。小学一年生の「知之行之」歌や踊りが印象にのこった。4名の使節団員も暗算、詩吟、ピアノ演奏、高松〇×クイズなど堂々と発表し、青春の輝かしいひと時を体験でき、きっと忘れられない思い出となったことだろう。

久保団長と一緒にホームステイ先一軒を訪問させてもらった。リビングにはたくさんの本や雑誌が山のように積まれて、定年退職したお祖父さんがもともと出版社出身と聞いて納得した。迎え入れた団員にとって一人の空間がほしいだろうと、南向きの広い寝室を団員に使ってもらって、その家族は北側の部屋で寝ることにして、最高のもてなしで接していたことに感動した。

二年振りの南昌訪問だが、南昌市の発展ぶりに目を見張るものがあった。西駅から市内への整備された道路、5月オープンしたばかりの万達文化広場、家族で賑わう世界一室内水族館など町全体がいきいきとして活気に溢れている。

この中学生の友好都市派遣事業は平成3年から実行して以来、米英による対イラク攻撃が開始され世界情勢が大変な緊張状態になったことに加え、WHOが「重症急性呼吸器症候群」の対応について異例の勧告を出した年を除き、途絶えたことがない。これは全国の友好都市交流事業の中で若い世代の草根の交流として極めて珍しいもので、高く評価されている。

今回も、高松市と南昌市ひいては日本と中国の友好交流のために使節団のみなさんが一人ひとり小さな種を蒔いたが、その種がきっと綺麗な花を咲かせ、いつか絢爛たる春の景色となっていくことだろう。

最後に、この交流事業に携わったすべての関係者の皆様に心から感謝申し上げます。謝謝！





高松市訪中親善使節団に参加して

高松市立桜町中学校 1年

松本 叶

僕は、小学2年生から詩吟を習っています。その詩吟の会の先生からこの使節団員への参加をすすめていただき参加することができました。中国で詩吟を披露して中国の人に詩吟の素晴らしさを伝えることが、僕の使命でした。もう一つの使命が、高松市のいい所を広めてくるという事です。

訪中の研修が始まり練習を重ねていくうちに段々と責任がある事だと思えてきました。全部が成功するようにと祈りました。

出発が近づいてくると不安ばかりが大きくなって自信がなくなりそうになりました。初めての海外旅行、初めての飛行機、言葉が通じないかも知れないホームステイ、詩吟がうまく伝えられなかったらどうしよう、家族と離れて一人の一週間、考えたら胸がドキドキすることばかりでした。

1日目の上海のホテルでは、不安が最大になって夜泣いてしまいました。次の日、南昌市に行って、南昌第28中学校で交流会が行なわれました。ぼくの最大の使命の詩吟の披露です。心配しながら気持ちを落ち着けて詩吟を披露しました。自分でも驚くほど上手できてとても気持ちが楽になりました。一番びっくりしたのが、中国の人たちの大きな拍手と僕に向けられたたくさんカメラです。こんな経験は初めてでとてもうれしかったです。3日間のホームステイでは英語で会話ができ、家族もとてもいい人たちで、心配していたことを忘れてしまうくらい楽しく過ごせました。楽しい思い出がたくさんできて、お別れする時は淋しくて涙がでました。中国の6日間は、気温が40度を越えたり湿度が70%越えたり、大変苦しいこともありましたが、自分にはとても大きな宝物になりました。お友達もできて帰ってからも連絡を取っています。



中国での体験、いろいろな経験をこれからの生活に活かしていけたらいいと思いました。





中国での学び

高松市立桜町中学校 1年

旭 竜之介

今回、僕は中国の街並み、文化、人々の暮らし、同年代の人がどんな人たちなのかを見たくて中国へと出発しました。

僕が驚いたことは三つあります。

一つ目が建物の形です。上海では、建物の一部が球状だったり、建物が絞るようにねじれていたり、日本では見ないような個性的な建物がありました。ガイドさんによれば、中国は日本より地震が少ないので、日本では建てられないような建物が作れるそうです。



二つ目に、味が濃く辛い物が多い中国の食事に驚きました。これ程とは！と面食らい、中国最初の食事では少ししか食べることができませんでした。

三つ目が中国の中学生の英語力の高さです。流暢な英語で話す彼らを見て、自分ももっと英語に力を入れようと気が引き締まりました。

また、中国では水回りの設備などが日本より使いにくかったり、冷たい飲み物があまり無かったりと日本の住みやすさを実感しました。



僕は中国語は全く分からず、英語も苦手だったので、ホストファミリーは、極力翻訳機能を使ってくれましたが、翻訳されてもおかしいところがあったりしたので、僕も言いたいことを推測してコミュニケーションをとりました。

また、噴水のショーに連れて行ってくれたり、パソコンのゲームを貸してくれて使い方を教えてくれたりなど、僕を快く迎えてくれているということが伝わってきて、心が温かくなりました。

南昌第28中学校を訪問し、交流をしたときは、中国の中学生から、写真を撮ったり、連絡先を交換するなどの声を掛けてくれて、積極的にコミュニケーションをとろうとしてくれました。



このような体験から、国が違い言葉が違っても、お互いで努力すれば言いたいことや気持ちを伝えることができると思いました。

僕の今回の訪中使節団参加は初めての海外で不安もありました。しかし、仲間の団員や久保団長、何さんに南昌第28中学校のみなさん、ホストファミリーのおかげで学ぶことが多い素晴らしい訪中になりました。謝謝！



南昌市での人々との出会い

香川大学教育学部附属高松中学校 2年

真部 いさな

訪中親善使節団のみんなと最初に会ったときは、「友達になれるかな」と心配でした。でも、今ではすっかり仲良しです。

中国の都市は上海も南昌もとても発展していて、びっくりしました。上海から南昌の移動に使った中国の高速鉄道は、とても快適で速かったです。万達広場の水族館は大阪の海遊館並みに広くて、イルカショーは日本よりもダイナミックでかっこよかったです。また、上海の金融センタービルからの眺めは本当にきれいでした。

その一方で、中国の伝統文化もとても素晴らしいものでした。陶芸芸術博物館では、技術力の高い芸術作品をたくさん見ることができました。また、そこで修行している人々の熱心さにも驚きました。

三日目に訪問した南昌市の第28中学校のみんなは、とても積極的で、日本人とは全然違うなと思いました。いろいろ個性を生かした発表をしてくれて、とても感激でした。使節団が発表したときにも、〇×クイズや一合まいたなどに、どんどん参加してくれて、うれしかったです。みんなが参加してくれたおかげで、人とつながれたなと感じました。

発表の後の休憩時間には、「一緒に写真を撮ろう！」とか「WeChat(中国のLINEみたいなアプリ)のアカウントを教えて！」とたくさんの人が声をかけてくれて、すぐに仲良くなれて、よかったです。帰国してからも、数人とWeChatでやり取りをしています。

ホームステイ先はお母さんと女の子二人の家族でした。みんなとても親切で安心しました。私を喜ばせようと、予定になかったライトアップショーなどにわざわざ連れて行ってくれました。ステイ先の徐馨渥ちゃんと一緒に乗った二人用自転車は、一番の思い出です。



ホストファミリーでも、はっきりとしていて積極的な性格に少し驚きました。持って行ったお土産の記念切手を、「これは中国で使えないから、あなたが日本で使ってください」と返されたのはびっくりしました。でも、積極的に話してくれたのですぐにとっても仲良くなれたし、ホームステイっていいなと思いました。

今回の使節団では、中国の文化に触れるとともに、人とつながることがとても大切なことなのだとことを学びました。私は今まで他の国の人に話しかけられても、あまり話すことができませんでした。でも、これからは中国の人たちみたいに積極的に話しかけて、交流したいなと思いました。中国にいた間にお世話になったみんなに感謝したいです。謝謝！





国際交流って素晴らしい！

香川県大手前高松中学校 2年

吉田 千桜

私が今回の中学生訪中親善大使に参加して学んだことは「コミュニケーションの大切さ」である。

中国への訪問は二回目であったが前回と大きく違う点は目的であった。以前訪中した時は家族旅行のため観光のみで中国の人たちと関わる機会は少なかった。しかし、今回は現地の中学校を訪問して自分たちの文化や特技を披露したりホームステイをしたりと国際交流が主であり現地の中学生たちとも触れ合う時間があった。特にホストファミリーとは食事をしたり、ゲームをしたり短い時間だったが、楽しく深い交流ができた。

昨今、テレビや新聞などで報じられている中国は「領土問題」や「大気汚染」など心配になるニュースが多く私自身あまり良い印象は抱いていなかった。しかし、実際に中国の人たちと交流してみると気さくで親切で、私分からないことを聞くと英語とジェスチャーで一生涯懸命伝えようとしてくれたり、食事の時もとても気遣ってくれたりして、最初に持っていた私のステレオタイプは大きく変わっていった。

また、驚くことも沢山あった。例えば、中国では生水を飲むのは避けたほうが良い。現地の人々は果物を多く食べる。これは水分を摂るための生活の知恵であるかも知れない。

また、食事は香辛料が多く使われていて所謂「激辛」が殆どだった。南昌市は夏、非常に暑く体力を消耗しやすい気候の中で、しっかり食べられる工夫として辛いものを摂取するようだ。

コミュニケーションでも発見があった。文化、言語、思想、様々な違いがある中で意志の疎通を図るのは大変難しかった。英語での会話でさえもイントネーション、ニュアンスの違いがあるようだなかなと思うように伝わらず「言葉の壁」が本当に目に見えたようであった。

このようにその国ならではの独自の文化やイントネーションがあることを知った。そして英会話の必要性を強く感じた。

中国には「楯の両面を見よ」という諺がある。これは一面的な見方をせずに、物事の表と裏の両側からしっかり見た上で判断せよという教えだ。今回の訪中で私はマスコミの報道で構築された一面だけで物事の判断をしてはいけないと思った。自分の目で見て考えて積極的にコミュニケーションをすることが大切であり、今回知り合った中国のたくさんの友人との関わりを今後も大切にしていきたいと思っている。

今回の中国訪問は、今後の私の考え方を大きく変えるものになった。謝謝！再見！



